

## 第 学年 国語科学習指導案 例

日時： 年 月 日 ( ) 第 校時  
 場所： 中学校 年 組  
 生徒： 名  
 指導者： 立 中学校 ○○○○

### 1. 単元名 (教材名)

\*「○○をしよう」など、どのような資質・能力を育成するために、どのような言語活動を行うのが生徒に分かるように工夫して示す。

### 2. 単元の目標

- (1) ~できる。〔知識及び技能〕
- (2) ~できる。〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) ~伝え合おうとする。 「学びに向かう力、人間性等」

\*学習指導要領の目標や内容、学習指導要領解説等を踏まえて作成する。

\*〔知識及び技能〕 と〔思考力、判断力、表現力等〕は、指導事項の語尾を「~できる」に変えて記述する。  
 「学びに向かう力、人間性等」 は当該学年の目標の「 ~伝え合おうとする」までを記述する。

\*〔思考力、判断力、表現力等〕はA B Cの領域の中から一つを焦点化し、その中の一つまたは二つの指導事項に絞って目標を設定する。

\*末尾に (C「読むこと」(1)のイ) のようにどの指導事項に基づくものか書いておく。

### 3. 本単元における言語活動

\*単元の目標を達成するために有効な言語活動を設定する。

例：関心のある事柄について、投書を書く。

(関連：〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ア)

### 4. 単元について

- (1) 生徒について (生徒観)

\*本単元で指導する指導事項における生徒の状況を書く。

- (2) 教材について (教材観)

\*当該教材を用いる理由を書く。

※教材観または指導観には、設定した言語活動にどのような特徴があり、付けたい資質・能力の育成のために、どう効果的かを記入すること。

- (3) 指導について (指導観)

\*学習形態やワークシート等、具体的な指導上の工夫について書く。

5. 単元の評価規準 \*←2 単元の目標 に対応させて書く。

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
*末尾は「～している。」	<p>*末尾は「～している。」</p> <p>*文の始めに、領域名を記す。</p> <div style="border: 2px solid blue; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>例 「話すこと・聞くこと」において、目的や場面に応じて、日常生活の中から話題を決め、集めた材料を整理し、伝え合う内容を検討している。 (A(1)ア)</p> </div>	<p>*末尾は「～しようとしている。」</p> <p>①粘り強さ(積極的に、進んで、粘り強く等)</p> <p>②自らの学習の調整等(学習の見通しをもって、学習課題に沿って、今までの学習を生かして等)</p> <p>③他の2観点において重点とする内容(特に、粘り強さを発揮してほしい内容)</p> <p>③当該単元の具体的な言語活動(自らの学習の調整が必要となるような具体的な言語活動)</p> <p>以上①～④の内容を全て含め作文する。</p>

6. 単元の指導と評価の計画(全 時間)

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準、評価方法等
1	*生徒の学習活動の流れを生徒の立場で簡潔に書く。	*指導者の立場で書く。	*どの場面で、何を基に評価するのかを書く。
	<p>例</p> <p>・「語彙手帳」(あるいは書籍、教科書など)から、新たに知った言葉を紹介するという目的を踏まえて、候補とする言葉を選んだ理由・意味・用例・出会い・エピソードなどを整理しながら、友達で紹介する言葉を決める。</p>	<p>例</p> <p>・言葉を選ぶ際には、今回のスピーチの目的や場面、相手などにふさわしい言葉を考えさせる。</p>	<p>例</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[思・判・表]① ノート ・ここでは、紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながらスピーチの内容を検討しているかを確認する。</p> </div>
2			

7. 本時の指導 時／全 時間

(1) 本時の目標

(2) 本時の展開

学習活動	指導上の留意点	評価規準と評価方法 ○ Bと判断できる状況 ● Cと判断する状況の手立て
<p><b>*生徒に示す本時の目標を記載</b></p>		
<p><b>*生徒の立場で書く。</b></p>	<p><b>*指導者の立場で書く。</b></p>	<p><b>*例：[知・技]①語彙手帳</b> ○スピーチを聞いて新たに知った言葉を「語彙手帳」に書き留め、その言葉を適切な用例とともに記入している。 ●言葉の意味を辞書等で確認させ、どのように用いるとよいのかを具体的な場面を想定して記入できるよう指導する。</p> <p><b>*例：[思・判・表]①ノート</b> ○紹介する言葉を決め、目的や場面、相手などを考えて、その言葉に関するエピソードなどの話す材料を整理しながら、スピーチの内容を検討している。 ●紹介したい言葉を羅列している場合は、その言葉とどのように出合ったか、なぜその言葉を紹介したいと思ったか、紹介したい言葉の意味や成り立ちなどをノートに書き出させ、スピーチで伝えたいことについて考えさせる。</p>

↑ 単位時間の中で、3観点全ての評価をするのではない。  
評価をする場面は単元を通して精選し、  
↑ 単位時間に詰め込むことのないようにする。

		<p><b>*例〔主〕①観察・ノート</b></p> <p>○練習を通して相手に伝わるような表現の工夫を考え、発表会に間に合うように選んだ言葉を紹介しようとしている。</p> <p>●スピーチ練習はしていたが、それを基に表現を工夫したり修正したりする姿が見られない場合や、発表会に間に合わない場合は、具体的な指導や声掛けを行う。</p>
--	--	--

(3) 教材、ワークシート、板書計画、座席表 等

※参考になる資料等

◎『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 中学校 国語(令和2年3月)』

国立教育政策研究所

[https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326\\_mid\\_kokugo.pdf](https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_mid_kokugo.pdf)

